

事業名

住民の交流促進を目的とした 防災イベントの実施

事業概要

- これまで実施してきた白い布を掲示する安否確認訓練に加え、LINEを使ったデジタル安否確認訓練を実施。
- 未加入世帯にも防災訓練への参加を呼びかけることで、住民の交流促進につなげる。

実施期間 令和3年10月16日～令和4年3月13日
参加人数 139名(安否確認訓練参加実績)
事業総額 約22万9,700円
(地域の底力発展事業助成金 20万円)

役割分担

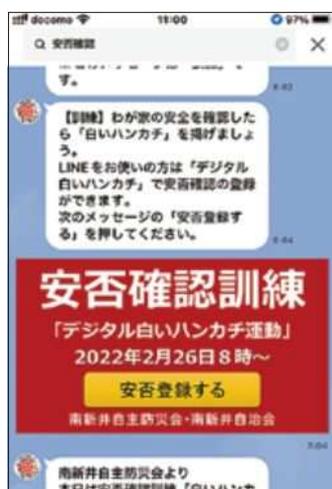
〈 イベント委員会 (11名) 〉
イベントの企画・運営
〈 広報委員会 (5名)、サポーター (2名) 〉
ホームページなどでの情報発信
〈 自治会組長会 (16名) 〉
各戸の安否確認、本部への報告
〈 イベントサポーター (17名) 〉
参加賞の包装や印刷物確認など事前準備の手伝い

主な経費(助成対象)

- 物品購入費
プロジェクター、スクリーン、タブレット、非接触体温計、コピー用紙、インクカートリッジ、インクジェット厚紙
- 印刷経費
ポスター、チラシ、勉強会資料

実施までの主な流れ

- 令和3年
- 10月16日 初回打ち合わせ。全体計画を決定
 - 12月27日 回覧板に事業予告掲載
- 令和4年
- 1月15日 参加団体等との調整状況を確認
 - 1月15日 回覧板「自治会だより」に事業概要掲載
 - 2月1日 「広報ひの」に事業概要掲載
 - 2月6日 イベント委員会で役割分担、準備状況を確認
 - 2月14日 非自治会員も対象にチラシ400枚を配布、ポスターを掲示
 - 2月20日 イベント委員会とサポーターで事前準備会
 - 2月25日 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、安否確認訓練以外のイベント中止を決定
 - 2月26日 安否確認訓練を実施
 - 3月13日 反省会



自治会公式LINEでの安否確認画面。午前8時4分に安否確認の登録指示を送付した。

事業の実施内容

● 安否確認訓練

実施場所 南新井ふれあいサロン、地域内
開催日 令和4年2月26日

① 白いハンカチ運動

安否確認用の白いタオルなどを玄関先に掲示してもらい、組長が確認しLINEにより本部に状況を報告する。

② デジタル白いハンカチ運動

自治会がLINE公式アカウントを設け、登録者に対しメッセージを送付。安否確認の登録フォームから登録。

南新井ふれあいサロンに自主防災会の本部を設置。アカウントに登録した会員や組長からのタブレットによる報告が自動的に管理画面に反映する方式とし、管理画面は自治会のホームページからも閲覧できるようにした。

安否確認訓練には、町会未加入者も含め、白いハンカチでの確認が90軒、個人のLINEからの登録が49名、合計参加者数は139名となった。

LINEを使った安否確認訓練の流れ

エリア内の自治会員と自治会員以外のお宅に訓練実施案内を配布

午前 7:50 LINE公式アカウント登録者に訓練実施を予告通知

午前 8:00 地震発生を知らせる通知

午前 8:02 地震がおさまったあとの対応を指示

午前 8:04 安否確認の登録指示のメッセージを送付

メッセージに付与した登録フォームで安否状況を登録

本部の管理画面に自動的に反映
自治会ホームページからも閲覧可能

事業による成果・効果

デジタル化で自治会の防災力を強化

LINEを活用したデジタル安否確認訓練の導入により、より迅速な安否確認が可能になった。また、進捗状況について、自主防災会本部だけでなく、自治会の4区域ごとに配置された組長、防災会メンバーなどの関係者もリアルタイムで共有できるようになるなど、防災力の更なる強化につながった。

また、オンラインの登録フォームを活用し、参加者からの感想や意見を集めたところ、「外出中で白い布を掲示できないときもLINEであれば安否登録できるのでいい」など、安否確認のデジタル化を評価する声が寄せられた。

事業を振り返って

防災をはじめとした自治会の活動を知ってもらい、加入促進につなげたい

南新井自治会では、令和2年度に住民アンケートを実施。その結果、自治会に対して防災活動への期待が高いことがわかった。これを受け、今回、非会員世帯も含めてチラシのポスティングを実施。3世帯の新規加入につながった。

一方で、環境保全や清掃など自治会の防災以外の取組を知らない住民も多い。安否確認訓練への参加呼びかけに加え、町会の活動を周知することなどを通じて、さらに加入世帯を増やしていきたいとしている。



取組を紹介してくれた皆さん。左から広報委員会の伊藤裕造さん、自治会長の上原英喜さん、自主防災オプザーバーの小城三千雄さん